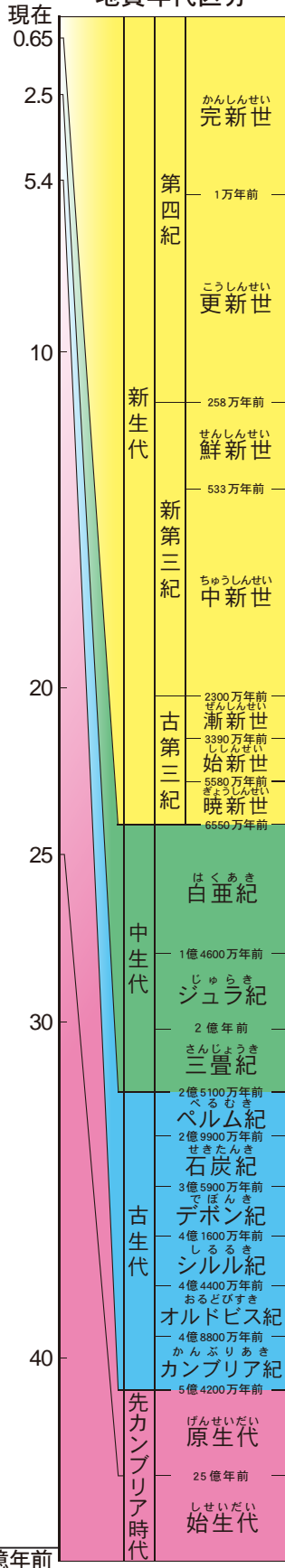


茨城の地史

地質年代区分



島弧の時代

日本の土台となった地層が大陸東縁でできた時代

霞ヶ浦の形成
つくば市周辺の
ナウマンソウ
下総層群（古東京湾）
多賀層群
男体山火山角礫岩 ①（日本海拡大時の火山活動）
浅川層（熱帯～暖温帯の貝類・植物化石）
北田気層，九面層 ②
白土層群
湯長谷層群

白水層群
大洗層（陸成層，植物化石）
筑波山花こう岩類 ③
那珂湊層群 ④（海成層，アンモナイト化石）
阿武隈深成岩類
八溝深成岩類
筑波山から八溝山にかけてのジュラ紀付加体
（海洋プレート上の堆積物）
一部変成
日立古生層（堆積岩とそれに付随する玄武岩）
大雄院花こう岩類 ⑤
日立変成岩類（日本最古の地層）



① 男体山火山角礫岩（袋田の滝）



② 九面層（五浦海岸）



③ 筑波山花こう岩類



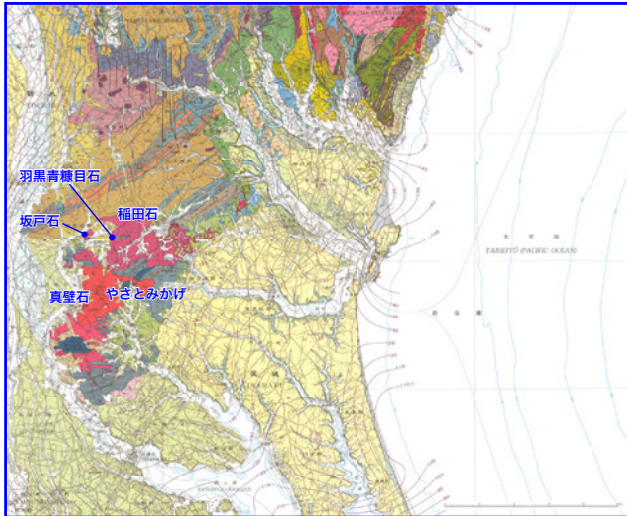
④ 那珂湊層群



⑤ 大雄院花こう岩類（日立鉾山）

ふるさとの石 茨城の花こう岩 -日本の近代化を築いた石たち-

20万分の1地質図幅 水戸(第2版)



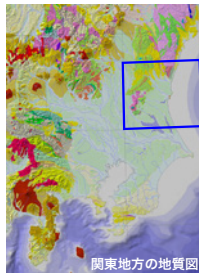
笠間市と桜川市に分布する花こう岩の特徴

- ① 石材として良質である
- ② 東京から最も近い位置にある

水戸線の開業(明治22年、1889年)により、東京への輸送手段を得た茨城の花こう岩は、東京を始めとする関東地方での多くの近代建築や、電車軌道敷石・道路舗装・橋・河川工事などの社会資本整備に使われました。右のパネルをご覧ください。

茨城の花こう岩は、「日本の近代化を築いた石」と言えます。

日本最大の平野である関東平野の地質は、未固結で強度の小さい堆積岩です。これらの堆積岩を建築物や土木構造物に使うことはできません。江戸城築城では、遠く、伊豆半島の安山岩(小松石)が船で運ばれました。



関東地方の地質図

茨城の花こう岩が築いた社会資本

- 1895年(明治28) 旧司法省
- 1902年(明治35) 三井銀行本店
- 1908年(明治41) 東京鉄道株式会社軌道工事
- 1911年(明治44) 日本橋
- 1911年(明治44) 鬼怒川水力電気株式会社(栃木)
- 1912年(大正1) 東京市電軌道工事
- 1912年(大正1) 京王電気軌道工事
- 1913年(大正2) 鍛冶橋
- 1914年(大正3) 東京駅
- 1914年(大正3) 笛吹川改修工事(山梨)
- 1920年(大正9) 明治神宮表参道跨線橋工事
- 1921年(大正10) 稲田神社大鳥居と参道(茨城)
- 1923年(大正12) 丸の内ビルディング
- 1924年(大正13) 日本銀行新館
- 1927年(昭和2) 京橋-日本橋間軌道工事
- 1928年(昭和3) 隅田公園外園工事
- 1932年(昭和7) 大阪瓦斯ビルディング(大阪)
- 1936年(昭和11) 江戸川河水路修築工事
- 1938年(昭和13) 第一生命保険相互会社ビル
- 1940年(昭和15) 信州御嶽山神社大鳥居(長野)
- ...
- 1966年(昭和41) 最高裁判所



日本橋(明治44年)



東京市電軌道工事(大正1年)



東京駅(大正3年)



日本銀行新館(大正13年)



第一生命ビル(昭和13年)



最高裁判所(昭和41年)

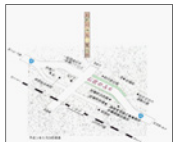
写真提供: 茨城県石材業同組合連合会
中野組石材工業株式会社

地質情報展 2011 みと -未来に活かそう大地の鳴動 産総研地質調査総合センター

地質情報展 2011 みと -未来に活かそう大地の鳴動 産総研地質調査総合センター

加波山・筑波山周辺の花こう岩と人の営み 石に託された想いを聞いて

石匠のみち(国道50号・岩瀬バイパス) 14名の石彫作品が町のふれあいを演出しています。



「石匠のみち 一般国道50号・岩瀬バイパス」(岩瀬町)より

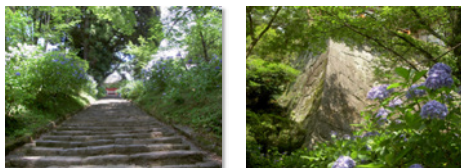


MOKKORI 作: 浅賀正治(稲田石)



Iwa 作: 成田孝之(真壁石)

雨引観音(楽法寺)の石段と石垣(桜川市 大和)



いしおさん(桜川市 真壁 相田豊石材)



「一番「ゆる〜い」と思うご当地キャラ」2010チャンピオン

真壁石燈籠(桜川市)

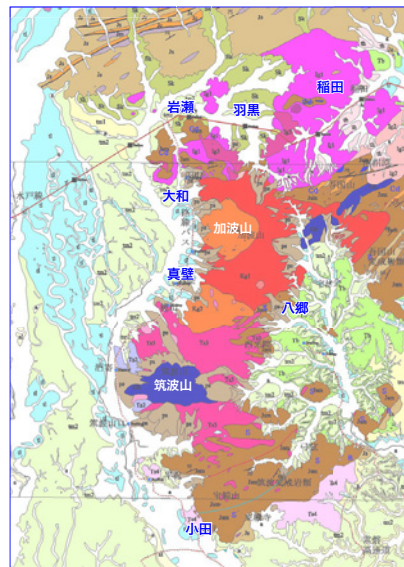


経済産業大臣認定伝統工芸品

真壁氏累代の墓地(桜川市)



茨城県指定文化財



茨城の花こう岩は、その鉱物の大きさや色あいにより、採石地の地名を冠して呼ばれています。

- ・稲田石
- ・羽黒青糠目石
- ・坂戸石
- ・真壁石
- ・やさとみかげ

高橋(2006)では、左の地質図に示す14種類に分類しています。

高橋(2006): 数値地質図「真壁」及び「土浦」地質編纂図(筑波山及び周辺地域の地質案内)、地質調査総合センター研究資料集、no.435より

小田の石造物(つくば市) 関東での石造文化発祥の地です。ハイキングコースがあります。



地蔵菩薩立像(湯地蔵、鎌倉後期) 茨城県指定文化財



極楽寺跡の五輪塔(鎌倉後期) つくば市指定文化財



宝篋山頂の宝篋印塔(鎌倉中期) 2011.3.11地質で発見。茨城県指定文化財

地質情報展 2011 みと -未来に活かそう大地の鳴動 産総研地質調査総合センター

地質情報展 2011 みと -未来に活かそう大地の鳴動 産総研地質調査総合センター

大正10年(1921年)の建築石材産地

国会議事堂は、「真にやむをえざるものを除いては全部国産材を使用する」との方針のもとで、建築されました。

明治43年(1910年)から2年間をかけて、大蔵省臨時建築部が全国の石材調査を行いました。

大正7年(1919年)からは、臨時議院建築局が追加調査を行いました。

そして、大正10年(1921年)に臨時議院建築局編集「本邦産建築石材」が刊行され、調査結果が公表されました。

この中で、茨城県内6産地の花こう岩の物性や産状が詳細に調べられていました。



茨城1 西茨城郡 西山内村 稲田 茨城4 真壁郡 榎野村 上小幡 臨時議院建築局編集「本邦産建築石材」より
 茨城2 西茨城郡 西山内村 稲田 茨城5 新治郡 懸瀬村 大塚
 茨城3 西茨城郡 北山内村・北那珂村 茨城6 西茨城郡 岩間村 難墨山

明治～大正期の花こう岩の採石



明治時代の丁場(採石場)

江戸時代

宝暦2年(1752年)に建てられた茨城県笠間市大町の三所神社の石鳥居には笠間の大郷戸村から石が運ばれた、との記録があることから、江戸時代にも採石が行われていました。

明治20年(1887年)

開始された水戸線敷設工事に膨大な石材を提供しました。

明治29年(1896年)

東京の石材問屋鍋島彦七郎が、稲田石の開発に着手。採石場から水戸線沿線まで2kmのトロッコ軌道を整備。地元の協力を得て、稲田駅用地を日本鉄道株式会社に寄付。翌年、稲田駅開業。

明治37年(1904年)

大貫亀吉が羽黒・池亀間のトロッコ軌道を整備。同年、羽黒駅開業。



石を運んだ轎(そり)



トロッコでの輸送(羽黒駅付近)



羽黒駅前の集石所

写真提供：茨城県石材業協同組合連合会

地質情報展 2011 みとー未来に活かそう大地の鳴動 産総研地質調査総合センター

みませんか 稲田・岩瀬・大和・真壁・八郷・小田

稲田御坊(西念寺)の聖橋と参道(笠間市)

稲田神社の鳥居(笠間市)



石の街に石の学校(岩瀬石彫展覧館)・石彫家 浅賀正治氏のとりのくみ(桜川市)



石彫家 浅賀正治氏の略歴

- 1983年 岩瀬町での制作活動を開始
- 1985年 第7回ブルガリア・ガブロ国際傑出エンターテインメント賞受賞
- 1987年 県内外の学校などで石彫を通じての教育活動を開始
- 1992年 岩瀬石彫展覧館を開館
- 1994年 アーティスト・イン・レジデンスを開始
- 1997年 茨城県国際交流奨励賞受賞
- 2004年 ブルガリア共和国名誉市民賞受賞
- 2005年 日本国際交流基金地球市民賞受賞
- 2011年 ブルガリア共和国 Golden Century 賞受賞(氏の「石の街の文化交流活動」に対して)



月山寺の庭石(桜川市 岩瀬)



加賀美幸子「石の声が聞こえる」より
 捨てられた大きな石が気になり、いとおしく、たくさん持ち帰って庭石にして大事に育て上げたのは、岩瀬にある名刹天台宗月山寺のご住職光栄純秀さんである。

石は本当に生きている。とご住職は語る。二十代で捨て石を庭石にしようと思ひ、その後二十数年、初めはおどおどしていた石が、みるみる生き返り、庭石として扱われているうちに、自然と見事な存在になってきた様子を、ご住職は目を細められる。

「ましてや人間をや・・・」というメッセージが、優しく伝わってくる、石の町の冬の午後の庭であった。



5月10日は 地質の日

見て！さわって！地球がわかる
2012年5月10日を中心に全国でイベント開催

今年の地質の日は木曜日です。前後の土日やゴールデンウィークに、全国の博物館、大学、研究機関で、数多くのイベントが開催されます。この機会に、みなさんの住んでいる大地のことを学んで見ませんか？みなさんの参加をお待ちしています。



写真提供：1. 北海道白糠町 3. 「地質の日」くまもと実行委員会 4. 石と賢治のミュージアム

地質の日の由来

5月10日は、明治9年(1876)、ライマンらによって日本で初めて広域的な地質図、200万分の1「日本蝦夷地質要略之図」が作成された日です。

また、明治11年(1878)のこの日は、地質の調査を扱う組織(内務省地理局地質課)が定められた日でもあります。

地質の日事業推進委員会は全国で行われる地質の日の行事をバックアップしています。

地質の日事業推進委員会：(一般社団法人) 日本地質学会、(一般社団法人) 日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、(独)産総研地質調査総合センター、日本堆積学会、日本第四紀学会、日本鉱物科学会、日本科学未来館、(地独)道総研地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(NPO)地質情報整備・活用機構、(社)東京地学協会、(独)国立科学博物館、全国科学博物館協議会、(NPO)日本ジオパークネットワーク(順不同;2012年2月現在)

ここに用いた地質図は100万分の1日本地質図第3版と(財)日本水路協会海洋情報研究センターが作成した標高データJTOPO30を使用して作成しました。

【地質の日事業推進委員会事務局】
独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
TEL: 029-861-3687 FAX: 029-861-3672

各地域のイベント情報はこちらから

<http://www.gsj.jp/geologyday/>